

## 目 次

デューラー、クラナハ（父）、バルドゥング・グリーンをめぐって ——ドイツ・ルネサンス美術研究の現在——	青 山 愛 香	（ 1 ）
ハンス・バルドゥング・グリーンの「ヌード」 ——人文主義的絵画批評 / 批判もしくはキャリア戦略？	アンヌ＝マリー・ボネ 青 山 愛 香（訳）	（ 19 ）
ルーカス・クラナハ（父）の《シュネーベルク祭壇画》（1539 年） ——ザクセン選帝侯の絵画戦略における クラナハ（父）の役割について——	ダニエル・ゲレス 青 山 愛 香（訳）	（ 63 ）
宗教改革時代の印刷物を分析するための視角 ——カールシュタット「天国と地獄の馬車」（1519 年）を中心にして	永 本 哲 也	（ 89 ）
想像の植物、植物の創造 ——バウル・クレア《花ひらく木》をめぐって	山 本 淳	（ 159 ）
青色で描く 江戸時代のドイツ・オランダ・日本文化交流史の一局面 ～西川如見の「紺硝」を切り口にして～	渡 部 重 美	（ 191 ）